2025年度日系次世代育成研修
大学生招へいプログラム

実施報告書

独立行政法人国際協力機構（JICA）
特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニャイ子ども基金

目次

1．日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）概要 P.1

2．研修生リスト P.6

3．プログラム日程 P.7

4．各プログラムの内容 P.8

5．研修生の感想 P.17

6．総評 P.27

7．添付資料（募集要項） P.29

１．日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）概要

①研修の目的

中南米の日系社会は世代交代が進み２世、３世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通し、日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人材を育成することを目的としています。

本研修では、将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日系次世代の大学生が、日本人の海外移住の歴史に関する学習・本邦大学での研修・その他の各種研修を通じて自分たちのルーツと日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することを目的としています。

②研修期間

来日：２０２５年6月１６日（月）　　離日：２０２５年7月9日（水）

③研修生内訳（P６参照）

・人数：２１名
・出身国：ブラジル ９名、アルゼンチン ２名、パラグアイ １名、
ペルー ２名、ボリビア ２名、メキシコ ２名
コロンビア １名、ベネズエラ １名、キューバ １名

④各プログラムの目的

研修への導入

目標：この研修のねらい・背景について学ぶ

・自己紹介、国紹介プレゼンテーション
来日までに準備しておいた自己紹介、自国の紹介を通じて、自国以外の国にかかる移住の歴史や日系社会に関心を持つことを目指します。

移住学習

目標：日本人の移住の歴史を学ぶ

・海外移住に関する史跡巡り（横浜市 馬車道地区～みなとみらい地区）
・海外移住資料館見学（JICA横浜内）
・神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）
・講義：「移民の歴史」

日本の戦前・戦後の移住の歴史全体を学ぶことを通し、自分たちの祖先や家族、コミュニティの移住にかかる歴史や社会的文脈について理解を深め、自らの日系人としてのアイデンティティ、ポテンシャルについて考え、強化することを目指します。

大学研修

目標：日本の大学生活を経験する

・大学研修

日本の大学を訪問し、日本の大学生や留学生たちと交流しながら日本の大学生活を経験します。また大学や大学院での講義を受講するとともに、ワークショップなどへの参加を通して、自らの専門性を高める方法を知ることを目指します。

研修旅行

目標：施設訪問、文化体験、ホームステイ体験をする

・神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）
・広島平和記念公園、広島平和記念資料館見学（広島県広島市）
・安芸太田町で文化体験、ホームステイ体験（広島県安芸太田町）
・新幹線他、公共交通での移動

二泊三日の旅行を通じて、日系移住の歴史や、日本人が体験した戦争、平和について学ぶとともに、地域文化の理解や地域住民との交流を通じた異文化体験をします。

その他

・自分を知り、異文化理解の方法を深める

講義：異文化理解

・日系人の活動を通じ、リーダーとしての資質や日系人のポテンシャルを考える

フィールドワーク：日系人の営む農場・多国籍の子どもを受け入れる学校の見学

・奨学金制度を知り、日本へ留学した際に自らの専門性を高める方法を考える

講義：日本への留学
演習：日本に留学中の学生との意見交換ならびに交流会

・日本文化を体験するとともに、古い日本と現代の日本を比較し、自らのルーツである日本への理解を深める

演習：茶道体験
演習：七夕飾り作り
フィールドワーク：浅草～スカイツリー～佃島訪問・歴史探索

⑤各プログラム実施の方法

研修への導入

研修生同士が互いを理解し合うことを目的に、来日前に準備したパワーポイントを活用し、自己紹介および自国紹介を行いました。この活動を通じて、自国以外における日本人移住の歴史にも触れることができ、日系社会への関心を互いに高める機会となりました。

移住学習

日本人の海外移住の歴史を学ぶために以下の講義・演習・フィールドワークを実施しました。

・講義：移民の歴史
・海外移住に関する史跡巡り（横浜市 馬車道地区～みなとみらい地区他）
・海外移住資料館見学（JICA横浜内）
・神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）

講義で移住の歴史的背景を学んだうえで、実際に史跡を訪れたり、資料を直接見る体験を組み合わせることで、研修生一人ひとりが移住事業にかかる理解を深め、自らのルーツを考える契機となりました。

大学研修

大学研修では、横浜国立大学を訪問し、日本人大学生との大学生活の体験を行いました。また、研修生と日本人大学生とでグループを作り、「家族」「美容・ファッション」「旅行」「学校生活」「健康」「食」などのテーマごとにディスカッションやプレゼンテーションを実施しました。これにより、互いの考えの共通点や相違点を知り、自らの考えをさらに深めることができました。

研修旅行

二泊三日の研修旅行では、以下の施設を訪問するとともに、異文化体験を実施しました。国内の公共交通を用いた長距離移動を体験、移民や日本人の歴史に関わる重要な施設の見学に加え、日本の農村部におけるホームステイと異文化体験を通じて、多面的に自己のアイデンティティを見つめ直す機会となりました。

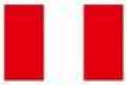
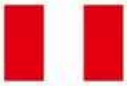
・神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）
・広島平和記念公園、広島平和記念資料館見学（広島県広島市）
・安芸太田町で文化体験、ホームステイ体験（広島県安芸太田町）
・新幹線他、公共交通機関での移動

その他

上記カテゴリー以外で、本研修の目的を達成するために特に有用であると考えられたプログラムとして、以下のように実施しました。

・講義：異文化理解
・フィールドワーク：日系人の営む農場、多国籍の子どもを受け入れる学校の視察
・講義：日本への留学について
・演習：日本に留学中の学生との交流会
・演習：茶道体験の実施
・演習：七夕飾り作りの実施
・フィールドワーク：浅草～スカイツリー～佃島を訪問と歴史探索

2．研修生リスト

No.	国名		学校名	No.	国名		学校名
1		ブラジル	サンパウロ大学 （機械工学部）	11		アルゼンチン	ブエノスアイレス 国立大学 （心理学）
2		ブラジル	サンパウロ大学 （看護学科）	12		パラグアイ	聖イグナチオ デ ロヨラ大学 経営学部 （マーケティング学科）
3		ブラジル	パラナ連邦大学 （情報システム学科）	13		ペルー	聖イグナチオ デ ロヨラ大学 人文学部 （心理学科）
4		ブラジル	IDP大学 （法学部）	14		ペルー	ペルー カトリック 教皇大学 （工学部）
5		ブラジル	セアラ連邦大学 （生物科学）	15		ボリビア	開発 イノベーション大学 （ガストロノミー学科）
6		ブラジル	パラナ州立大学 （情報システム学科）	16		ボリビア	ボリビア私立大学 （電子工学科）
7		ブラジル	ブラジリア カトリック大学 （医学部）	17		メキシコ	サンディエゴ メサ カレッジ （生物学科）
8		ブラジル	サンフランシスコ 連邦大学 （経営学科）	18		メキシコ	アナウアク大学 （医学部）
9		ブラジル	FAMETRO大学 （医学部）	19		コロンビア	ハベリアナ カリ カトリック大学 （コミュニケーション学科）
10		アルゼンチン	ブエノスアイレス 国立大学 （グラフィックデザイン）	20		ベネズエラ	アラグア ビセンテナリア大学 （心理学科）
				21		キューバ	エルネスト ゲバラ デ ラ セマ 医科大学 （医学部）

3．プログラム日程

実施日	曜日	朝会 8:45	9:00～ 9:50	10:00～ 10:50	11:00～ 11:50	11:50～ 13:30	13:30～ 14:20	14:30～ 15:20	15:30～ 16:20	夕会 16:30～		場所
6/16	月	到着日										
6/17	火	朝会	アイスブレイク (~10:35)		開講式	昼休み	オリエンテーション		施設案内	夕会		JICA横浜 研修室
6/18	水	朝会	プレゼンテーション (国紹介)			昼休み	大学研修オリエンテーション		研修旅行 オリエンテーショ	夕会		JICA横浜 研修室
6/19	木	朝会	日本文化 体験 七夕飾り	講義「移民の歴史」		昼休み	講義「異文化理解」			夕会		JICA横浜 研修室
6/20	金	施設見学										埼玉県児玉郡
6/21	土	休日										
6/22	日	休日										
6/23	月	バス移動 8:50～9:30		大学研修 10:00～12:00		昼休み	大学研修 13:00～14:30		大学研修 14:40～16:10		夕会 17:15～ 18:00	横浜国立大学 （横浜市）
6/24	火	バス移動 8:50～9:30		大学研修 10:00～12:00		昼休み	大学研修 13:00～14:30		大学研修 14:40～17:45			横浜国立大学 （横浜市）
6/25	水	朝会	海外移住に関する 史跡めぐり		海外移住 資料館 見学	昼休み	講義 「日系人のアイデンティティ」			夕会		JICA横浜 研修室
6/26	木	朝会	講義「日本への留学」 留学生との交流会			昼休み	茶道体験			夕会		JICA横浜 研修室
6/27	金	地域学習（浅草・押上・佃島） 9:00~18:00										浅草方面
6/28	土	休日										
6/29	日	休日										
6/30	月	バス移動 8:50～9:30		大学研修 10:00～12:00		昼休み	大学研修 13:00～14:30		大学研修 14:40～16:10			横浜国立大学 （横浜市）
7/1	火	8:10出発 ～ 新横浜駅 ～ 神戸駅 ～ 昼食 ～ 神戸市海外移住と文化の交流センター ～ 神戸駅 ～ 広島駅 ～ 18:00ホテルチェクイン										兵庫県神戸市 広島県広島市
7/2	水	ホテル9:00出発 ～ 平和記念公園 ～平和記念資料館～ 昼食 ～ 移動　安芸太田町 ～ 安芸太田町 神楽道具作り ～ 対面式 ～ 17:00ホームステイ先移動										広島県広島市 安芸太田町
7/3	木	朝食・田舎生活体験・昼食づくり・昼食 ～ 13:00お別れ式 ～ 広島駅移動 ～ 広島駅出発 ～ 新横浜駅 ～ 18:50帰着										広島県 安芸太田町
7/4	金	朝会	振り返り ディスカッション		報告書作成 オリエンテーション	昼休み	報告書作成			夕会		JICA横浜 研修室
7/5	土	休日										
7/6	日	休日										
7/7	月	朝会	帰国オリエンテーション	最終発表準備		昼休み	最終発表リハーサル			夕会		JICA横浜 研修室
7/8	火	朝会	発表準備	最終発表		昼休み	帰国準備	閉講式14:00~15:00 懇親会15:30~16:30				JICA横浜 研修室
7/9	水	離日日										

4．プログラム内容

Day 1
6/16(月)

● 到着日
研修生21名が、成田空港・羽田空港にそれぞれ到着しました。長いフライトでしたが、体調を崩す研修生もいませんでした。

Day 2
6/17(火)

● アイスブレイク
研修生同士の交流を深めるため、アイスブレイクとして各種のゲームを行いました。名前を覚えるゲームでは、すでに全員の名前を覚えている研修生もおり、驚きの声があがり、会場が盛り上がりました。

● 開講式
JICA横浜植木次長による温かい歓迎の挨拶とスタッフ紹介の後、研修生ひとりひとりが前に立ち、1分間の自己紹介を兼ねたスピーチを行いました。緊張しながらも自分の言葉でしっかりと発表する研修生の姿に、会場は温かい雰囲気に包まれ、これから始まる研修への期待が一層高まりました。

● オリエンテーション
研修の進め方や生活上の注意点について説明し、研修生が安心して研修に臨めるようオリエンテーションを行いました。その後、JICA横浜の施設を全員で見学し、研修環境への理解を深めました。

Day3
6/18(水)

● プレゼンテーション
研修生は来日前に準備してきた自己紹介と国紹介のプレゼンを行いました。自己紹介では自分自身の学びや将来の目標について語られ、国紹介では自国の歴史や文化、社会的な特徴などが紹介されました。研修生同士がお互いの背景や考え方を理解する機会ともなり、交流が一層深まりました。また、発表を通じて日系社会や自らのルーツに対する関心を新たに持つきっかけともなりました。

● 大学研修オリエンテーション
大学研修に向けて、内容やスケジュール、注意点を確認しました。

● 研修旅行オリエンテーション
研修旅行に向け、日程・移動方法・訪問先での注意事項を確認しました。

Day4
6/19(木)

● 講義：移民の歴史　（移住学習）

● 講義：間文化主義と多文化主義（異文化理解）

● 演習：文化体験・七夕飾り製作
研修生は日本の伝統行事である七夕にちなみ、短冊や飾りを作る体験をしました。手作りの飾り作りを通して、これまで話に聞くだけだった七夕を身近に感じ、日本の文化をより深く理解する機会となりました。

Day5
6/20(金)

● 日系ブラジル人経営の農場と学校訪問・視察
埼玉県でねぎ農場と学校を経営されている日系ブラジル人の施設を訪問しました。20代で来日し、経営者として成功するまでの歩みや、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育、外国人雇用への貢献など、日本とブラジルの懸け橋として幅広く活動されている姿は、研修生にとって大変刺激となり、将来の自分たちの可能性を考える大きなきっかけとなりました。

Day6
6/23(月)

● 大学研修
研修生と日本人大学生がグループを作り、テーマごとに意見を交換しながら学びを深めるワークを行いました。文化や考え方の違いを実感するのみならず、多くの共通点や共感できる部分があることに気づくなど、新しい発見と学びがあり、同じ世代の若者同士、互いが理解を深める貴重な機会となりました。

Day7
6/24(火)

● 学食体験

● 大学研修　2日目はまず、横浜国立大学内にあるコンクリート工学研究室を見学し、最新の研究設備や技術に触れました。次に、サイバーセキュリティに関する授業を受講しました。最後に南米からの日系人留学生たちの研究内容について学び、意見交換を行いました。それぞれの専門分野への理解を深めるとともに、実際の研究や技術の応用について学ぶ貴重な機会となりました。
授業や施設見学で得た知識をもとに、教授陣・研修生同士・日本人学生とグループでディスカッションを行いました。最先端の知識をもとに意見交換を通じて考えを整理し、学びをより深める充実した時間となりました。

Day8
6/25(水)

● 海外移住に関する史跡巡り
馬車道~みなとみらい地区の海外移住に関する史跡を徒歩で巡ったあと、移住資料館の見学をしました。移住の歴史についての学びを深めるとともに当時の家財道具などをみることを通し、移住の歴史への理解を深めました。

● 講義「日系人のアイデンティティ」では、自分のアイデンティティについて更に考察するきっかけとなる学びを得ました。

Day9
6/26(木)

● 演習：日本への留学
留学制度についての詳しい案内のあと、現在日本に留学中の日系人留学生に直接質問をする意見交換会を実施しました。

● 演習：茶道体験
茶道に関する講義を受けた後、実際にお茶を点てたり、和菓子を食べたりする体験をしました。体験のあと、講師に様々な質問が出るなど、研修生の興味関心の深さがうかがえました。

Day10
6/27(金)

● フィールドワーク：浅草～押上スカイツリー～佃島歴史探索
江戸期以来発展してきた浅草や、東京のシンボルであるスカイツリーを見学した後、江戸時代と現代の開発が融合する佃島を訪問しました。古き良き江戸の雰囲気が残る町並みと近代建築を見ることを通し、伝統と現代の両方の東京・日本を知る貴重な機会となりました。

Day11
6/30(月)

● 大学研修

前週の大学研修時に模造紙ワークやディスカッションで深めた各グループのテーマ：「家族」「美容・ファッション」「旅行」「学校生活」「健康」「食」をさらに深め、パワーポイントを用いて発表しました。国ごとの文化や習慣の違いを改めて理解するとともに、同じ世代としての共通点や、日本にルーツを持つことによる共通点など、さまざまな気づきがありました。大学院での研究テーマを発見した研修生もいます。

Day12
7/1(火)

● 研修旅行１日目（神戸～広島二泊三日旅行）

新幹線で新神戸まで移動した後、神戸市立海外移住と文化の交流センターを訪問しました。神戸港は横浜港と同じように多くの移民船が出航した場所でもあります。移住者たちが出航を待ちながら滞在した当時そのままの部屋や、移民船の模型があり、祖先の思いを感じる体験となりました。神戸を後にし、広島に新幹線で移動、広島駅前のホテルのチェックインし、新幹線での移動の体験を振り返りました。

Day13
7/2(水)

● 研修旅行２日目（神戸～広島二泊三日旅行）
2日目は、路面電車で広島平和記念公園へ移動した後、ガイドの説明を聞くツアーに参加しました。広島に関するクイズで場が和んだ後、広島の被爆について、公園内だけでなく爆心地の案内も含めて詳しい話を聞くことができました。涙する研修生もいました。広島平和記念資料館では各言語の音声ガイドを利用し、見学しました。

午後は安芸太田町に移動し、神楽道具作りや神楽衣装を着る体験をし、その後ホストファミリーとの対面式、それぞれの受け入れ家庭に向かいました。緊張の瞬間でした。

Day14
7/3(木)

● 研修旅行３日目（神戸～広島二泊三日旅行）
３日目は、各ホストファミリー宅で日本の生活体験・昼食作りを行いました。お別れの会では研修生代表が感謝のスピーチを日本語で行いました。

盛りだくさんのスケジュールをこなし、無事横浜に戻りました。

Day15
7/4(金)

● 振り返り
全体を通じた振り返りを行いました。これまでのプログラムで得られた知見や日系人としてのアイデンティティの再発見などの成果をそれぞれのチームで整理し、今後の活動や学習にどのように活用できるかを確認しました。それらのデータを整理し、プレゼンの準備を行いました。

Day16
7/7(月)

● 帰国オリエンテーション
「研修のしおり」を用いて、帰国に向けた注意事項や手続きについてオリエンテーションを実施しました。

● 最終発表準備
翌日グループごとに行う研修の学びのプレゼンテーションの準備を行い、その後、リハーサルを実施しました。パワーポイントの内容を整理し、意図が正確に伝わるように確認するとともに、発表時の聴衆への視線や声の出し方などにも注意を払う練習を行いました。

Day17
7/8(火)

● 最終発表会　本研修で体験したこと、学んだことの成果をグループごとに発表しました。発表のあと、帰国後の日系社会との関わり方と目標をそれぞれが宣言しました。

● 閉講式　JICA横浜の大野所長による挨拶のあと、修了証授与式を行いました。最後は研修生代表によるスピーチをもって締めくくりました。

● 懇親会　閉講式に参加した関係者および研修生が一堂に会し、交流の時間を持ちました。研修生有志によるダンスや歌の披露があり、会場全体が和やかで充実した雰囲気に包まれました。

Day16
7/9(水)

● 離日日　研修生同士、また研修期間を通して関わったスタッフと別れを惜しみながら、研修の成果を胸に帰国の途につきました。

5．研修生の感想

※各研修生が提出した最終報告書のまとめ部分です。
（英語から日本語への翻訳は特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニャイ子ども基金関係者が行いました。）

研修生No.１　ブラジル　サンパウロ大学(機械工学部)

日本での交流体験を通じ、日系アイデンティティについて深く学ぶことができました。日系アイデンティティは単なる系譜的な概念ではなく、日本の移民の歴史、困難を乗り越える力、新しい文化・社会への適応によって形作られる動的なものです。移住の歴史や未知の土地での挑戦、現代の日系生活の複雑さなど、さまざまな要素がこのアイデンティティの豊かさを支えています。

尊敬、規律、勤勉、忍耐といった価値観は世代を超えて伝えられ、世界中の日系人をつなぐ基盤となっています。また、会館や世代間協力（連携）の重要性は、文化遺産を守りつつ、現代社会に適応するために欠かせません。伝統と現代性の調和は、日系コミュニティの活力と継続性を支えます。

異文化理解や多文化共生の議論、非日本人コミュニティが直面する教育課題の分析を通じ、包括的で公平な社会の構築の重要性を実感しました。他者を理解し尊重することは、すべての人が活躍できる社会をつくる第一歩です。

今回の研修を通じ、日系人であることの誇りや共有する文化の価値を改めて認識しました。日系アイデンティティは柔軟で適応力があり、世代や地域を超えて継承されることで、今後も持続可能なコミュニティづくりに生かされます。

研修生No.２　ブラジル　サンパウロ大学(看護学科)

世界の反対側で自分らしく過ごす機会をいただき、心から感謝しています。この経験を通じて、私は世界市民であること、そして日系人として、より良い生活を求めて海を渡った先祖の子孫として、どこにいてもつながりと所属感を持ち続けられることを確認できました。

JICAの皆様、ありがとうございます。先生方、ありがとうございます。受け入れ家庭の皆様、ありがとうございます。

また、横浜国立大学での活動や各プログラムにおいて、特に私が最も支援を必要とした時に温かく受け入れてくださったF教授に心から感謝申し上げます。旅の中で最も尊敬すべき方の一人として、私の話を真剣に聞いてくださったことに深い感謝と敬意を抱いています。F教授の知性と温かさ、そして卓越した指導に心から感銘を受けました。

研修生No.３　ブラジル　パラナ連邦大学(情報システム学科)

日系アイデンティティは、多面的で微妙なニュアンスを持つ抽象的な概念だと感じています。単に日本人の血を引いていることだけではなく、さまざまな背景や共通の目的が凝縮され、私たちを結びつけ、より良い自分になるように導くものだと思います。それはコミュニティや家族、友人、そして私たちにより明るい未来をもたらすために先祖が努力や犠牲を払った成果すべてを含むものです。

今回の研修は信じられないほど貴重な経験であり、自分の大きな夢の一つを達成できたことがまだ完全には実感できていないほどです。この経験によって自分はより良い方向に変わり、ここで学んだことや出会った人々とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思います。

ブラジルに戻った後も、さらに成長し、自分のコミュニティに貢献し、学んだことを友人や家族、そしてより広い日系コミュニティに伝えていきたいと考えています。

研修生No.４　ブラジル　IDP大学(法学部)

日系人であることは、単なる血統ではなく責任でもあります。日本からの移民の子孫として、私は二つの国をつなぐ生きた遺産を受け継いでいます。本研修を通じて、日系人の役割は伝統を守るだけでなく、文化や社会、世代をつなぐ架け橋を積極的に築くことにあると改めて感じました。

研修を通じて、JICAがこれらの架け橋を育む上で重要な役割を果たしていることを実感しました。単なる研修提供にとどまらず、対話や文化保存、国際協力のプラットフォームを提供していることは、私にとって大きな学びでした。私はブラジルで若手日系リーダーとして活動しており、REN Jovensでの青少年リーダーシップやコミュニティ支援の取り組みは、JICAの活動とも連携できると強く感じています。特にブラジリアでは、教育・文化・起業支援の分野でさらなる協力を広げられる可能性があります。

また、日系アイデンティティの未来は参加型で動的であるべきだと実感しました。文化遺産を守るだけでなく、政策・教育・ビジネス・国際協力に活かし、若者が意思決定に関わり、リーダーとして活躍できる環境を整える必要があります。

今回の研修を単なる参加体験として終わらせるのではなく、文化プログラムの拡充、地域の日本関係機関との連携、ビジネスパートナーシップの構築、ブラジル・ラテンアメリカにおけるJICAの活動支援といった具体的な行動につなげていきたいと思います。この経験は旅の終わりではなく、未来の世代がブラジルと日本の間でより強い架け橋を歩むための種を植える出発点です。

研修生No.５　ブラジル　セアラ連邦大学(生物科学)

両国は重要なグローバル課題において共にリーダーシップを発揮することができます。日系人は、日本が今後も発展し続けるために重要な存在です。また、日本の人々は、ブラジルの日系人から異文化理解や創造性、困難に立ち向かう力（レジリエンス）など、多くのことを学ぶことができます。

いつか必ず再び日本を訪れたいと思います。そしてどこにいても、日本での経験と思い出は私の心に残り続けるでしょう。

研研修生No.６　ブラジル　パラナ州立大学(情報システム学科)

この研修を通じて、私は日系人としてだけでなく、女性として、人間として大きく成長することができました。自分のアイデンティティは、枠に収めるものではなく、自由に表現し、祝うことのできるものだと実感しました。敏感さや好奇心、野心、地に足のついた部分など、自分の全てを受け入れられるようになりました。交流の中での会話や笑い、静かな散歩の一つひとつが、自己理解を深める貴重な経験となりました。

友人たちが知識や経験を惜しみなく共有してくれたことに感謝すると同時に、私も自分が知っていることを少しずつ返そうと努めました。しかし、研修を通じて最も価値があったのは、知識や講義ではなく、互いに通じ合う安心感やつながりの感覚だと思います。異なる国や文化、年齢、背景を持つ人々に囲まれる中で、最初は戸惑うこともありましたが、そこから一歩踏み出すことで、友情や互いの温かさを実感することができました。

将来の目標として、まずは日本で修士課程を学び、その後博士課程にも挑戦したいと考えています。学びは教室だけでなく、人や文化、経験からも続けたいです。日本語をさらに磨き、地元の人々と心から向き合い、対話を重ね、学んだことや自分の経験を共有していきたいと思います。また、日系コミュニティへの貢献も続けていきたいです。イベントや研究、活動への参加を通じて、短い滞在でも一つひとつの時間を大切に過ごしていきます。

いつか必ず再び日本を訪れたいと思います。そしてどこにいても、日本での経験と思い出は私の心に残り続けるでしょう。

研修生No.７　ブラジル　ブラジリアカトリック大学(医学部)

研修を通じて、日系人であることは単なる血統ではなく、文化的体験や記憶、そしてグローバルな世界の中で自分たちのアイデンティティを絶えず形作っていく過程であることを理解しました。また、日系人は現在もアイデンティティの葛藤や言語の壁、文化のはざまに立つ感覚など、多くの課題に直面していることを学びました。「異文化性（alteridade)」などの概念を学ぶことで、自分自身の歩みをより明確に見つめることができ、異なる世界の間で対話や共感を生み出すために自分の経験を活かせることを実感しました。本研修は、教育や文化交流が偏見をなくし、国や世代、人々をつなぐ架け橋となることの重要性を強く示してくれました。

将来に向けて、私は日本とのつながりをさらに深めたいと考えています。日本財団や海外日系人協会の奨学金に応募する予定です。また、ブラジルに戻った後は、地元の日系コミュニティと協力し、ワークショップや祭り、ストーリーテリングイベントを開催することで、文化的ルーツとの再接続を促したいと思います。

最終的に、日系アイデンティティは単に受け継ぐものではなく、生き、築き、共有するものであると実感しました。それは国や世代、人々をつなぐものです。本研修は、私にとって一生大切にしたい思い出を与えてくれたと同時に、行動する目的も与えてくれました。自分自身の物語から文化の架け橋を築き続けることを胸に、誇りを持って帰国します。

研修生No.８　ブラジル　サンフランシスコ連邦大学(経営学科)

研修を通して、同僚や教授の話に触れる中で、日系アイデンティティは固定されたものではなく、変化し続ける生きたものであることを理解しました。これまで考えていた日系であることの意味は広がり、私たちが果たせる役割や可能性をより多面的に捉えられるようになりました。他者の経験を通じて、自分の経験を見つめ直すと同時に、異なる視点や現実を知ることで、日系アイデンティティの多様性と柔軟性、可能性を実感しました。
この経験を踏まえ、私はサンフランシスコ渓谷地域の日系コミュニティに対して、文化の「伝播者」として活動していきたいと考えています。具体的には以下の活動を目指します。

1. 若い世代への日本語教育、特に継承語としての指導
2. ワークショップや文化祭、講演などを通じてアイデンティティと異文化理解を深める活動（例：茶道体験、留学・訪日促進の講演、奨学金経験者による体験談の共有）
3. 日本の伝統芸能や文化（生け花、書道、着付け、太鼓、折り紙、風呂敷、季節祭りなど）の普及
4. 自身の行政・運営経験を活かした日系団体の効率的かつ持続可能な運営支援
5. 若者リーダー育成プログラムの企画・実施
6. JICAや奨学金制度などを通じた日伯間のネットワーク強化

私は以前から日本で学び、働くことを夢見てきました。この研修で実際に日本を体験したことで、その思いはさらに強まりました。今後は日本語教師向けの専門プログラムに参加し、教育技術を高めた上で、修士課程に進み、日本社会に貢献できる教育者を目指します。この経験により、遠い夢が自分の人生計画として具体化され、アイデンティティや価値観、未来への希望へと強く結びつきました。

この研修は、知識だけでなく目的意識を与えてくれました。私は自己理解を深め、先人たちの歩みを尊重しながら、その遺産を生かして未来につなげていきたいと思います。日系人であることは過去を記憶するだけでなく、未来への架け橋を築くことでもあります。

研修生No.９　ブラジル　FEMETRO大学(医学部)

日本に来たことで、これまで抱いていた夢がよみがえり、新たな目的が生まれました。私は学生として、将来の医師として、そして日系人として、日本に自分の居場所があることを実感しました。ブラジルに帰国する今、日系人としてのアイデンティティへの思いはこれまで以上に強まりました。
私は、地域活動や研究、教育、交流を通じて、ブラジルと日本の架け橋を築きたいと考えています。特に若い世代の四世・五世（Yonsei・Gosei）が自分のルーツに誇りを持ち、その価値を理解できるよう支援したいと思います。

研修中に出会った学生たちや、関係者のサポートに触発され、私は将来的に日本で大学院に進学する夢を持つようになりました。医療への情熱と文化的使命を融合させ、人々を癒しながら日系の歴史を伝えていきたいと考えています。また、自身の家族やトメアス（Tomé-Açu）の口承史を記録し、アマゾン地域の日系遺産を保存する活動も計画しています。

結局のところ、ブラジル人か日本人かを選ぶのではなく、両方のルーツを尊重し、その融合や思いやり、文化、それらを未来につなげることが大切だと学びました。

研修生No.10 アルゼンチン ブエノスアイレス国立大学(グラフィックデザイン)

本プログラムは単なる研修旅行ではなく、学びと成長、そして新しい人間関係を築く貴重な機会となりました。好奇心を持って日本に来ましたが、帰国する今、貴重な思い出や知識、異文化理解を深める経験を得ることができました。また、自分自身の気づきや、新しい状況への適応力についても学びました。
JICAの皆様、受入れ家庭の皆様、大学生の皆様、そしてこの経験を可能にしてくださったすべての方々に感謝いたします。将来的には再び日本を訪れ、人々や伝統からさらに学び続けたいと考えています。

研修生No.１１　アルゼンチン　ブエノスアイレス国立大学(心理学)

研修期間中のすべての経験が思い出深いものでしたが、特に広島への訪問が印象に残っています。広島は私の祖先が長く暮らした県であり、家族の出身地の具体的な農村地域には行けませんでしたが、とても感動的で涙が出そうになる場面もありました。原爆に関する学びも深まり、第二次世界大戦の重要な出来事を改めて実感しました。現地で体感することで、書物や映像では得られない学びがありました。
また、農村での生活も学ぶことができ、緊張しつつも非常にワクワクする体験でした。Sさんにはほとんど面識がない中、温かく迎えていただき、大変感謝しています。
特に楽しかったのは温泉体験です。アルゼンチンの文化にはない習慣で、最初はカルチャーショックを感じましたが、日本独自の文化を体験でき、とても貴重な経験となりました。
今後の目標としては、自分の専攻に関連する奨学金に応募し、取得することです。また、このような研修で得た経験を活かして、将来的に再び日本で学ぶ機会を得たいと考えています。

研修生No.12　パラグアイ　聖イグナチオ デ ロヨラ大学経営学部(マーケティング学科)

この研修を通して、私は自分自身のルーツに誇りを持つと同時に、「自分らしく生きる」ことの意味を改めて考えるようになりました。そして、他の人の生き方や考え方も受け入れることができるようになったと思います。この学びを今後の人生やキャリアに活かし、パラグアイの日系社会、さらにはラテンアメリカ全体のつながりづくりに貢献していきたいと考えています。

研修生No.13　ペルー　聖イグナチオ デ　ロヨラ大学経営学部(心理学科)

今回の研修を通して、自分の「日系人としてのアイデンティティ」について深く考えることができました。日系であることは、見た目や他人からどう見られるかではなく、自分がどのように感じ、何を世界に示すかにあると理解しました。家族の伝統や価値観を誇りをもって受け継ぐことが、私にとって日系であることの意味です。他人に「あなたは日系ではない」と言われても、自分自身の見方と先祖とのつながりが大切であると気づきました。
この機会を与えてくださったJICAの皆様に心から感謝いたします。個人として成長できただけでなく、祖先の文化とつながることで誇りを感じることができました。空から見守ってくれる祖母や父も、きっと喜んでくれていると思います。

研修生No.14　ペルー　カトリック教皇大学(工学部)

この研修は、日系人としてのアイデンティティを強めるだけでなく、学んだ文化を伝え、守り、活かしていきたいという気持ちを抱かせてくれました。私は、ペルーと日本の橋渡し役として、学んだことを単なる「異文化」としてではなく、日々の生活の中で生きる価値ある知恵として広めていきたいと考えています。文化は遠くから学ぶものではなく、日々の生活の中で感じ、体験し、伝えていくものだと理解しました。

この貴重な経験を与えてくださったJICAに、心から感謝いたします。日本、そして自分のルーツを新たな視点で見つめ直すきっかけとなりました。

研修生No.15　ボリビア　開発イノベーション大学(ガストロノミー学科)

この研修を通じて、自分の個人的・職業的な目標に対する確信がさらに深まりました。私の大きな夢のひとつは、現代菓子や日本の菓子を学ぶことです。食文化は、自分のルーツとつながり、文化を共有する手段であると感じています。将来は日本で学んだ技術をボリビアに持ち帰り、伝統と現代を融合させた新しいアイデアを生み出したいと考えています。最終的には、日系とボリビアの文化を学び、味わい、体験できる場をつくり、若い日系人が自分のルーツを大切にし、誇りを持つきっかけを作りたいです。

日系人の可能性は、日本と現地社会をつなぐ「橋渡し」としての力にあります。日本のルーツと現地文化を持つ日系人は、二つの文化の間で生きることを学び、それを生かして起業や文化の発信などさまざまな分野で活躍できます。また、規律や責任感といった価値観を持ち、地域社会や多文化コミュニティの発展に貢献しています。

若い日系人は、自分のルーツを学び、SNSなどを通じてアイデンティティを発信することで、伝統を守りつつ新しい形で文化を広めています。私の町では、青年グループが活動を発信し、より多くの人々に日本文化や地域文化を知ってもらう取り組みをしています。

このJICA研修を通して、日系であることは二つの世界の良さを生かす文化的財産であり、創造性や価値観、連帯感を持ってコミュニティを強化し、多文化理解を促進できると学びました。私はこれからも自分のルーツを学び、共有し、次世代にも伝える責任を果たしていきたいと思います。

研修生No.16　ボリビア　ボリビア私立大学(電子工学科)

この研修は、日本の文化や工学の知識を学ぶ以上の経験でした。自分のルーツとつながり、価値観や考え方に挑戦され、より良い未来をつくる責任を改めて感じる機会となりました。特に広島平和記念資料館の見学は、単なる思い出ではなく、今後の生き方や働き方、社会への貢献を考える上での指針となる体験でした。また、ホームステイでの温かく誠実な体験は、日本の人々の心に触れることができる、書物や資料館では得られない最も人間的な側面を教えてくれました。

研修生No.17　メキシコ　　サンディエゴ メサカレッジ(生物学科)

ラテンアメリカ各国の日系社会は、現地に根づいた確立されたコミュニティです。ペルーではアルベルト・フジモリ元大統領（1990～2000年）、メキシコではヤクルトの現地法人を設立したカルロス・カスガ氏（慈善活動にも積極的）など、日系出身の著名人も多く活躍しています。日本から移住した人々は当初、得た富を日本に持ち帰ることを目指していましたが、戦争などの影響で帰国できず、そのまま現地に定住した人も少なくありません。

私自身も、メキシコで日本文化とつながる架け橋として活動したいと考えています。具体的には、伝統的な日本の菓子や料理を中心とした事業を始め、現地の人々に本物に近い日本文化の体験を提供したいと思っています。日系人として日本を訪れ、生活や文化に触れた経験は、自分の国に日本の良さを持ち帰る力になると信じています。

また、現地の文化との融合も試みています。例えば、メキシコの「死者の日（Dia de los Muertos）」は、先祖を供養する点で日本の「お盆」と共通点があります。この文化的共通点を活かし、お盆祭りや七夕祭りを紹介することで、メキシコの人々に日本文化を理解してもらう活動も行っています。七夕祭りは、短冊に願い事を書いて竹に吊るすというシンプルな形式のため、現地でも好評で、屋台や飲食を加えることでより楽しめる祭りとして広めています。

研修生No.１８　メキシコ　アナウアク大学(医学部)

今回のプログラムは約24日間と短い期間でしたが、非常にユニークで楽しく、忘れられない瞬間に満ちた経験でした。プログラムを通して、日本文化や習慣、生活様式について学ぶだけでなく、自分のルーツや日系アイデンティティを深く理解し、つながりを強める機会となりました。

当初は、活動内容や大学生との交流、言語の壁などに対して緊張や不安がありました。しかし、実際には言語の違いは障害にならず、参加者同士の雰囲気も温かく、強い絆が生まれました。この絆があったからこそ、新しい体験に挑戦し、個人的に成長するとともに、日系としての自覚を深めることができました。

特に印象的だったのは、移民史に関する講義です。先祖が経験した苦労や努力を知ることで、私たちが現在の生活を享受できることに感謝し、意識を高めることができました。また、多文化共生や異文化理解に関する講義は、違いが私たちを分けるのではなく、むしろ互いを補い合う力になるという考え方を学び、とても心に残りました。

ワークショップも非常に有意義でした。日本の習慣や伝統に関する知識や歴史を知ることで、文化への理解が深まりました。特に広島への研修旅行は、感情が入り混じる強い体験でした。広島平和記念資料館では、多くの人々が経験した悲劇に胸が痛み、涙があふれました。このような記憶を後世に伝え、同じ悲劇を繰り返さないことの重要性を強く感じました。

広島でのホームステイも素晴らしい経験でした。日本の家庭での生活や食事を通して、自分の国の朝食文化と比較しながら、日本人の生活や考え方をより身近に感じることができました。

また、横浜国立大学の学生との交流も楽しく刺激的でした。年齢が近い人々との意見交換を通して、新しい視点や価値観を学び、文化に対する好奇心がさらに高まりました。この経験を通して、ラテン文化と日本文化の違いを理解し、教育や習慣を互いに学び合う可能性について考えるきっかけにもなりました。

研修生No.19　コロンビア
ハベリアナ カリ カトリック大学(コミュニケーション学科)

この研修の旅を始めたとき、私は自分の内面に答えを求めていました。しかし、プログラムを通して学んだのは、答えを求めるべき場所は自分の内だけでなく、外の世界にもあるということです。コミュニティを築くことこそが人生の本質であり、この研修はその機会を与えてくれました。ラテンアメリカ中のさまざまな日系人とつながり、今では彼らを友人と呼ぶことができます。

もちろん、このプログラムで自分が探していたすべての答えを得たわけではありません。しかし、同じような環境で育ち、同じような問いを抱えながらも、自分らしく存在する人々と時間を共有することで、日系アイデンティティとは何かを深く理解できました。私にとって日系アイデンティティとは、他者ではなく自分自身で定義するものです。その微妙な違い、交差する背景、そして私たちが共有する多様性こそが、私たちを特別な存在にしています。

また、母や祖母と一緒に餃子を作った経験のように、日常の中で文化を体験し共有することが、私たちのアイデンティティを育む大切な一歩であることも学びました。

研修生No.２０　ベネズエラ　アラグアビセンテナリア大学(心理学科)

この研修を通して、私は自分の役割を「二文化の架け橋」として果たすという明確な意志を持つようになりました。私の目標は、ベネズエラと日本をつなぎ、相互理解と協力を促進することです。同時に、ベネズエラの日系コミュニティとラテンアメリカ全体の他のコミュニティとの結びつきを強化することも目指しています。具体的には、プログラムでの経験を第三世・第四世の若い日系人に積極的に共有し、彼らの日本語学習や文化理解を促すことで、祖先の文化とアイデンティティを守る土台を築きます。

また、この経験は私の日本での修士課程進学への決意を固めました。専門的な学びを通じて、日系人コミュニティの人的資源の最適化や、文化的適応・統合のプロセスの理解、多文化環境での職業的資質の活用に貢献したいと考えています。特に、若い世代の日系人に日本語教育や職業教育の機会を提供し、強固なネットワークづくりを支援することが重要です。

日本社会において、日系人の持つ潜在力を活かすことは、経済的活力や社会的レジリエンスを高める戦略的要素であると考えます。日系人がもつ二文化性と橋渡し能力は、単なる多様性の促進にとどまらず、イノベーションを生み、国際的な結びつきを強化する重要な資源です。

さらに、この潜在力は日本国内に留まらず、世界の各地に広がる日系コミュニティとのネットワーク形成によって、国際的な文化交流と相互繁栄に寄与する可能性があります。私は、日系人コミュニティの強化と若い世代の育成を通じて、日本と世界をつなぐ持続可能な架け橋を築くことを目指しています。

研修生No.21　キューバ　　エルネスト ゲバラ　デ ラ セマ医科大学(医学部)

これは、日本での私の体験の中で最も印象に残ったことや貴重な経験を簡単にまとめたものです。ここで私は、自分が必要だと知らなかった多くのことを学びました。

まず最初に学んだのは、コンフォートゾーン（居心地の良い範囲）から一歩踏み出して、新しいことに挑戦する大切さです。最初は少し難しく感じましたが、最終的にはこの経験を楽しむことができました。このことから、恐怖や不安が心を支配することがあっても、それに縛られず新しい冒険や新しい生き方を体験することが重要だと学びました。

また、規律の重要性についても学びました。目標を達成するためには、計画性と組織力が不可欠です。計画性がなければ、自分の目標に向けて必要な時間や努力をしっかりと構造化することはできません。

さらに、視野を広げることの大切さも実感しました。新しいことを学ぶこと―私の場合は日本語とポルトガル語―は、将来の可能性を広げ、新しい友人を作るためにも非常に役立ちます。

創造性やアートのプロセスについても学びました。特に印象に残ったのは茶道の体験です。お茶を点てる一つひとつの手順や技術、礼儀や敬意の表現に触れ、深く感動しました。

最後に、友情の重要性を学びました。新しい友人との出会いは、経験を豊かにするだけでなく、個人的な成長にも欠かせません。さまざまな場所から来た人々と交流することで、多様な文化や価値観を理解し、柔軟性や適応力が高まりました。このような貴重な出会いは、人生の見方を変え、また同じような経験をしたいという気持ちを強めてくれました。

私はこのプログラムに参加できたこと、そして笑い、学び、分かち合い、歌い、踊り、抱き合った素晴らしい仲間に出会えたことに深く感謝しています。この経験を自分だけに留めず、世界と共有していきたいと思います。これを通じて、かつてないほど明確な将来のビジョンを持つことができました。そして、日本で学び続けたいという強い思いがさらに深まりました。新しい場所を訪れ、新しい人々と出会い、新しい経験を積み、自己成長を遂げていきたいと思います。

日系人として、この経験をコミュニティだけでなく、私と同じようなストーリーを持つ人々にも伝え、こうしたプログラムへの参加を促すことが私の責任だと感じています。これは新しい人生、新しい考え方、そして飛躍の始まりにすぎません。

最後に、私をこのプログラムの一員として迎え入れてくださったJICA、そして私たちを最初から無条件で見守り、サポートしてくださったすべての先生方、特にSさんに心から感謝いたします。

本当にありがとうございました。

6. 総評

本研修は、中南米の日系人大学生を対象に、日本の移民の歴史や文化への理解を深めるとともに、自らのルーツについて考える機会を提供することを目的として実施しました。また、将来的に日系社会を支えるリーダーとしての意識や自分の考えを表現する力、発信力を高めることも目的としています。

研修には9か国から21名が参加しました。初めは緊張した様子の研修生も多く見られましたが、アイスブレイクやオリエンテーションを通して互いに打ち解け、安心して意見を交わせる雰囲気が生まれてきました。これによりグループ活動や学習への参加意欲も高まり、研修の基盤が整いました。

研修では、移民の歴史に関する講義や移住資料館等の見学を通じ、戦前・戦後の日本から中南米への移住の歴史や政策、生活の変遷について具体的に学びました。こうした学びは、自らのルーツを改めて理解する機会となりました。文化体験としては、茶道や神楽、七夕飾りの製作などを通じて、日本の伝統的な価値観や所作を学び、体感し、言葉や文字だけでは伝わりにくい日本文化の奥深さを理解することができました。また、地方でのホームステイでは、都市部とは異なる農村での生活に触れ、日本の生活の多様性を学ぶ貴重な経験となりました。最初はコミュニケーションに苦労する場面もありましたが、研修を通じて徐々に適応し、地域の方々との交流を楽しむ姿も見られました。

研修生たちは、この研修を通し、日々新しく生まれ変わっているような印象を受けました。自分の内面にある日系人アイデンティティの揺らぎに向き合いながら、様々な新しい体験や学びを通して自分と向き合う様子が見て取れました。プレゼンテーションやディスカッションでは、豊かな表現力を駆使し、自分の考えを整理し、相手に伝える力がさらに高まったと思えます。研修の成果として、最終発表では多くの学びや気づきを発信することができました。その中には、地域貢献や文化継承、教育への活用など、将来に向けた具体的な提案も多く見られ、リーダーとしての意識の高まりがうかがえました。

本研修は、研修生にとって、自らのルーツを見つめ直し自己を再発見し、日本文化を深く理解するとともに表現力を伸ばし、リーダーとしての意識を育む大変意義のある機会となったと考えます。日本人に温かく迎え入れられた経験は、自らの日系人としてのルーツへの意識をより強く、確かなものにする一助となったことでしょう。これらの経験や日系人としての確固たる意識の確立は、将来、日系社会をリードし、貢献していく人材へと成長する礎になると確信しております。研修生たちのためにお力添え頂きました全ての皆様方に心より感謝申し上げます。

最後に、閉講式での研修生代表スピーチをご紹介いたします。原文にあった個人名はイニシャルに変更しています。

JICAのみなさん、先生方、友だちへ

私はR・Kです。今日は、みんなの代表として話します。
私たちは、日本に来たときと、今では、とてもちがう人になったと思います。
このすばらしいけいけんに、みんな、とてもかんしゃしています。24日間、JICAは日本での生活をたくさん手つだってくれました。いみんや文化のことだけでなく、ニッケイとしてのじぶん、そして一人の人としてのじぶんを、もっとよく知ることができました。
とくに、いつもやさしく手伝ってくださったSさん、Hさん、Aさん、Tさん、それからだいがくけんしゅうをしてくださったFせんせい、本当にありがとうございました。

そして、JICAのスタッフのみなさん、えがおであたたかくむかえてくれて、ありがとうございました。
いっしょにすごしたみなさん、たのしいじかんをありがとうございました！
また日本に来たいです。今、私たちの心の一部は日本にあります。
みなさん、本当にありがとうございました。

7．添付資料（募集要項）

2025 年度
「日系次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」
募集要項

【研修の沿革及び目的】
本研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として、2015（平成 27）年度から「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」として実施してきました。本研修では、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本の文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを改めて意識すること、また、日系人リーダー像や専門性を高める方法を知ること、地域や日系社会への貢献を考えることで、研修の成果を基に、日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的としています。

【研修員】
1.　対象国および受入計画数
　12 ヵ国 21 名

対象国	人数
ブラジル	9 名
アルゼンチン	2 名
パラグアイ	2 名
ペルー	2 名
ボリビア	1 名
メキシコ	2 名
コロンビア	1 名

対象国	人数
ドミニカ共和国	2 名※
ベネズエラ	
ウルグアイ	
チリ	
キューバ	
合計	21 名

※ドミニカ共和国、ベネズエラ、ウルグアイ、チリ、キューバの５か国から 2 名の受入れ枠とする。

2.　研修概要
（1）内容

	単元目標	研修内容（予定）
1	日本人の海外移住の歴史の理解、また自分のルーツを学ぶことを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	・海外移住資料館等の見学。 ・移住に関する講義、ワークショップ ・各研修員のルーツを探る。 ・2 泊 3 日の研修旅行。 ・移住学習につながる事前課題等。
2	日本の文化、習慣を学び日本に対する理解を深めることを通じて、日系人と	・日本理解に関する講義、ワークショップ、視察見学等。

	してのアイデンティティを涵養する。	・ホームステイで日本の家庭生活を体験する。 ・2 泊 3 日の研修旅行
3	日系人リーダー像や、各自の専門性を高める方法を知る。 地域や日系社会への貢献を考える。	・日系留学生や日系社会研修員との交流会。 ・日本の大学生との交流。 ・研修員の専門分野に分かれたグループ別のプログラムの実施。 ・地域の多文化共生活動現場見学等
4	自らの考えを発信する機会を持つことを通じて、日系社会をリードする発信力のある人材を育成する。	・例：日系社会での情報発信のアイデアディスカッション等 ・報告書作成。 ・講義、視察等を通じた学習成果及び帰国後将来の目標や計画の発表報告会。

【重要】実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

(2) 研修期間（予定）：24 日間
2025 年 6 月 16 日（月）から 2025 年 7 月 9 日（水）

(3) 使用言語
英語/日本語
（講師が日本語で講義を行う場合は、英語の通訳を配置します。）

3. 応募資格要件
応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。
(1) 海外移住者及び概ね日系 3 世までの海外移住者の子孫（※）であること。
※日本人移住者の血統を引く者を指します。
※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。
(2) 研修参加時点での年齢が 18 歳以上 30 歳以下であること。
(3) 本事業対象国の高等教育機関（大学学部）に所属し、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するに十分な素質があると認められること
(4) 自分のルーツや日本に対する理解を深めることに高い関心があること。
(5) 日常会話レベルの日本語力を有すること。また、研修の講義を受講し、かつ議論に参加できるレベルの英語力を有すること。
(6) 心身とも健康で、本邦での集団生活に耐えられること。
(7) 来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。
(8) 親権者または保証人の同意が得られること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費をJICAが負担します。

（1）指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料もJICAが負担します。）

（2）本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費

（3）乗継のための第三国での宿泊に係る経費

※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。

※乗継時間6時間未満の滞在は対象外です。

（4）本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費（食費）は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。

※日をまたがない6時間以上の第三国滞在は対象外です。

〈支給額〉

1）本邦滞在中　　生活費　2,200円/日　※朝食及び夕食費として

（ただし、現物支給されない日のみ現金支給とする。）

2）第三国滞在中　生活費　4,000円/日　※朝食費、昼食費及び夕食費として

（4）　本邦宿泊施設の利用料金

（5）　海外旅行保険（往路・研修期間・復路に係る期間）

原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

〈留意事項〉 各国の国内線利用区間は保険対象外です。必要な場合は各自で加入してください。

（6）　所外研修、大学での研修、研修旅行のために必要な交通費

（7）　研修先に対する研修経費

5.　応募書類

応募書類は以下のとおりです。

・作成の際は、2025年研修初日時点の情報を記入してください。

・JICA様式を使用してください。

（1）JICA様式

1）身上書　　（様式第１号）

・パソコン入力可

・氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、短期

滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、**必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載**してください。旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

・国籍：**渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記載してください。**

※国によって短期滞在査証が免除となる可能性があります。詳細についてはJICA 事務所からの指示に従ってください。

2）誓約書　（様式第 2 号）

・応募者のサイン欄は、必ずご本人がサインしてください。

・親権者または保証人のサイン欄は、親権者または保証人自身が書いてください。

3）病歴申告書　（様式第 3 号）

・パソコン入力可（署名は自筆）

・JICA 様式による自己申告です。合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。

・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。

・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。

・既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。

・研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

・応募時以降に健康状態に変更が生じた場合は応募した各事務所へ必ず連絡してください。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

4）小論文（「本研修の参加目的と計画」）　（様式第４号）

英語又は日本語で書いてください。

・パソコン入力可

・日本語の場合は、手書きも可。

※「本研修になぜ参加しようと思ったのか。どのような目標を持っているか。帰国後、本研修の経験をどのように活かしたいか。」について、日本語又は英語で書いてください。

5）肖像権および個人情報使用承諾書　（様式第５号）

本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、研修員が署名してください。

(2) 写真…2 枚（データ可）※

最近 6 ヶ月以内に撮影したもの。（縦 4.5cm×横 3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏目に氏名・国名を記入）

※1 枚は身上書に貼付け、もう 1 枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 所属日系団体からの推薦状

正本１通

※所属団体がない場合は提出不要ですが、応募を機会に近辺の日系団体とコンタクトを取っておくことが望ましいです。

(4) 大学在籍証明書※

正本又は写しの公正証書１通

(5) 大学の成績証明※

正本又は写しの公正証書１通

(6) 日本語能力試験認定書等の日本語能力に関する証明書

写し１通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

(7) TOEIC、TOEFL 等英語能力に関する証明書類

写し１通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

（8）旅券の写し

5.（1）1）身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

① 既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が記されている全てのページを提出してください。

② 旅券を所有していない場合

JICA からの合否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。

※合否に関わらず、旅券取得経費については自己負担であることを説明願います。

※上記必要書類がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、またすべての書類が募集締切日（各国によって異なる）までに揃っていない場合は受理できません。

（8）旅券の写し②に該当する応募者の方は、早急に手続きを始めてください。

（注）提供された個人情報は、①合否の判定、②研修受入の手続き、③事業実績の取りまとめ等に利用します。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

（1）応募書類の提出締切

JICA 事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

（2） 提出方法

JICA 事務所の指定の方法で提出してください。

7. 受入決定

応募書類を基に JICA 横浜にて最終選考を行い、合格通知を発出します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を行います。

8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがあります。この場合、（6）および（8）の事項を除き帰国に必要な経費は研修員の自己負担とします。

（1） JICA の規則、指示および決定に従わなかったとき

（2） 研修先の規則に違反した場合

（3） 日本国の法令に違反した場合

（4） 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき

（5） 本人の都合により研修を中断したとき

（6） 心身の著しい障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき

（7） 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき

（8） その他 JICA がやむをえないと認める事由があるとき

9. 帰国報告会

研修員は帰国後、居住地近隣の日系団体等（日本人・日系人協会、各都道府県人会等）で報告会を行うことが義務付けられています。帰国報告会の実施及びその報告書を在外事務所担当者に提出してください。報告書の様式はJICA事務所から手交されます。

※報告会は、研修員が体験したことについて、日系団体等に共有するとともに本事業の広報の目的としても位置づけています。

（1）提出締切と提出方法

在外事務所のスケジュールに従い提出してください。

（2）提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

10. 施設利用

研修プログラムはJICA横浜の周辺施設にて実施されることがあります。

11. その他

感染症や災害発生等により、研修プログラムの変更、または来日中止となることがあります。

【注意事項】

1. 研修参加にあたって

(1) 感染症や災害発生等により、研修プログラムの変更または来日が中止となる可能性があります。

(2) 家族の同伴は認められません。

(3) 滞在延長や帰路変更は、研修員の自己負担であっても認められません。研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。

2．渡航準備

(1) 旅券

旅券を所持していない場合は、早急に申請手続きを開始するようにしてください。合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

(2) 査証

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA 事務所の指示に従ってください

※身上書には、渡航時に使用するパスポートに記載の国籍を記載するようにしてください。

(3) その他必要書類

1) 身分証明書等

日本旅券で渡航する研修員は、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）

帰国時、見かけ上、日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路空港でのチェックイン時に航空会社から、当該研修員が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められるケースがあります。

2) 出国承諾書等

居住国や経由する国によって査証以外の必要書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

4. 滞在中及び帰国時

・JICA 横浜宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。

・JICA 横浜セミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施し

ます。

以上

別紙：「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」応募書類様式

（1）身上書（様式第１号）

（2）誓約書（様式第２号）

（3）病歴申告書（様式第３号）

（4）小論文「本研修の参加目的と計画」（様式第４号）

（5）肖像権および個人情報使用承諾書（様式５号）